

令和6年10月11日
目黒区立中根小学校

令和6年度 前期の学習状況について

前期の学習状況について下記のとおり報告します。

記

1. 学習状況

(1) 目黒区学力調査結果（4月11日実施）

表1 令和6年度 目黒区学力調査結果 観点別正答率（単位：％）

教科	観点	2年		3年		4年		5年		6年	
		本校	区	本校	区	本校	区	本校	区	本校	区
国語	知識・技能	79.2	83.4	80.5	81.2	81.0	75.6	76.9	72.9	78.0	66.6
	思考・判断・表現	57.3	69.8	67.1	71.6	77.1	73.8	72.8	72.2	82.2	74.8
算数	知識・技能	85.0	87.5	86.1	83.6	80.4	80.7	82.4	77.3	82.3	61.8
	思考・判断・表現	57.5	63.9	71.0	70.8	71.9	71.0	65.0	57.1	76.8	56.3

(2) 全国学力・学習状況調査結果（4月18日実施）

表2 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果 平均正答率（単位：％）

		6年		
		本校	都	国
国語	知識・技能	86.1	72.6	69.8
	思考・判断・表現	78.3	68.4	66.0
算数	知識・技能	83.9	76.7	72.8
	思考・判断・表現	68.2	57.1	51.4

(3) カラーテスト結果（4月から10月まで）

以下の結果を受けて、課題の多い学年については、学習方法を改善したり学習指導講師を活用したりし、個に応じた指導の充実を図る。

表3 個人内平均値のステップごとの人数の割合（単位：％）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ステップ5(+10以上)	88	2	24	44	40	57
ステップ4(+5から+9)	1	22	31	29	29	18
ステップ3(0から+4)	1	17	19	11	22	14
ステップ2(-5から-1)	4	13	16	10	4	4
ステップ1(-6以下)	4	46	9	6	4	6

※ 対象教科を1,2年：国算、3,4年：国社算理、5,6年：国社算理英とし、実施したすべてのカラーテストについて、個人の結果と全国平均との差の平均値を個人別に求めた。個人内平均値の結果を5つのステップに分け、人数の割合を表にした。

(4) 令和6年度 総合質問紙調査「iCheck (2年から6年)」結果 (7月実施)

以下の結果を受けて、学級の規範意識を高めること、子供の発信力を高めることに取り組む。

表4 調査結果の平均値からみる本校の子供の様子

カテゴリー	項目
肯定的な 回答が多 い項目	【生活習慣】朝食は毎日食べていますか。
	【充実感と向上心】勉強やスポーツ、習いごと、しゅみなどで、今がんばっていることがありますか。
	【家族のささえ】家の人は、あなたが努力してがんばったとき、それをほめてくれますか、認めてくれますか。
	【家族のささえ】あなたにとって、家は心のやすらぐ場所だと思いますか。
	【友だちのささえ】あなたの気持ちを分かってくれる友だちがいますか。
肯定的な 回答が少 ない項目	【学習意欲】好きな教科や授業がありますか。
	【学級の規範意識】クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか。
	【発信力】あなたは、学校生活の中で他の人が発言したり、発表したりするときに、質問をしていますか。
	【発信力】あなたは、学校生活の中で発言をするとき、他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発言していますか。
	【生活習慣】平日 (月～金) は、何時ごろねますか。

2. 学習状況改善の視点

項番1の結果を受けて、以下の項目について指導することで、前期の学習状況の改善を図る。

表5 本校の学習指導における16の視点

No	項目
1	学習内容について、子供が自分の言葉で説明できるように指導する。
2	学習している内容は、簡単すぎず、難しすぎず、ちょうどいいものを設定する。
3	学習した内容を覚えているか、自分で自分にテストをするように指導する。
4	先生や友達から、できている点やできていない点について、アドバイスをもらうように指導する。
5	同じ教科の学習ばかりするのではなく、交互に学習するように指導する。
6	聞く・読む・見るなど、色々な方法で覚えるように指導する。
7	楽しみながら学習できるように工夫する。
8	学習した内容どうしの関係を、図や表にまとめて覚えるように指導する。
9	新しく学習する内容は、前に学習した内容とのつながりを考えるように指導する。
10	学習するとき、分かりやすい内容から理解し、それから難しい内容を理解するように指導する。
11	学習するとき、自分なりに例を考えるように指導する。
12	学習するとき、「そもそも」や「なぜ」について考えるように指導する。
13	学習内容の流れや全体像をふまえて、学習内容を覚えるように指導する。
14	短い時間で学習しようとせず、長い時間をかけて、学習した内容どうしを関係づけて覚えるように指導する。
15	学習した内容が、その教科の学習場面以外でも活用できるか考えるように指導する。
16	かたよった考え方をしていないか、自分の考えに意識を向けるように指導する。

以 上